

こやす・おおつぼいせき

子易・大坪遺跡

(伊勢原市No.123跡)

調査期間 20090201～20090331
20091001～20091215

所在地 伊勢原市子易字大坪

時代 縄文
古代



作成日:20090331 更新:20091201

概要

本遺跡の調査は神奈川県が行う県道611号(大山板戸)道路改良事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査として平成21年2月から実施しています。

遺跡は伊勢原市の中央部、小田急小田原線の伊勢原駅より西北西へ約3.7kmの地点、県道611号(大山板戸)線(大山街道)沿いの子易明神比々多神社から鈴川を挟んだ南側の河岸段丘上に位置しています(写真1)。現地表面は標高103～107mを測り、現在の鈴川との比高差は7m程あります。

今年度分の調査対象面積は714㎡で、調査対象範囲の東端部分となります。

これまでの調査で発見した遺構・遺物としては古代(奈良～平安時代)の円形土坑やピット、縄文時代の後期では、竪穴住居址や集石遺構、埋甕、配石遺構、炉址、ピットなど縄文時代のムラが見つかりました。中でも竪穴住居址のうち床全体に石が敷き詰めて作られた敷石住居址は、非常に良い状態で遺(のこ)されていて、どのように石が床に敷き詰められたのか、どんなところに柱が建てられていたかなどの様子がよくわかる貴重な資料となりました。

またローム上面では、獣を狩る時に作られた陥穴(おとしあな)と考えられる土坑が多く見つかりました。縄文時代後



▲ 遺跡遠景(南東から)



▲ 円形土坑(古代)

期より古い時期には子易・大坪遺跡は狩場だったことがわかりました。

平成20年度の調査に引き続き、今年度は10月から調査を開始しています。

今年度分の調査対象面積は446㎡で、昨年度の調査範囲の西側に隣接した部分となります。これまでの調査で発見した遺構・遺物としては古代(奈良～平安時代)の畝や土坑、縄文時代後期では、敷石住居址や集石遺構、埋甕、配石遺構、ピットなど昨年度の調査で見つかった縄文時代のムラが西へ広がる様子が見えています。中でも本遺跡2軒目となる敷石住居址は、巨大な板状の礫を随所に敷いていることが特徴としてあげられます。石材は丹沢の閃緑岩や凝灰岩が主体ですが、特に凝灰岩では角がそれほど丸くなっていないものが使われていて、どうも遺跡の直下に流れる鈴川の河床から持ってきた礫ではないようです。そのような石材をどこからどのように運んできたのか、興味がそそられます。(J2号敷石住居址)。

また集石遺構では、敷石住居址に隣接したところに直径80cmほどの穴を掘り、その中に大小の石を充填したものが検出されました(J4号集石)。充填されている石は焼けていないことが特徴としてあげられ、中には石棒も混ざって出土しています。この石棒は打ち割られた面を下にして配置されていたことがあったようで、よく観察すると、破断面で石が突出した部分がつぶれていることがわかりました。ガタつかないよう加工したものか、置くことを繰り返すことによってだんだんつぶれていったものなのでしょう。



▲J1号敷石住居址(縄文)



▲ J2号敷石住居址(縄文)



▲ J4号集石 遺物出土状況(縄文)



▲ J4号集石出土 石棒



▲ J4号集石出土 石棒破断面